

東海会の皆さん、こんにちは。私たちの執行年度も残りわずかとなりました。この会長報告のコーナーでは、東海会に関する事業や情報等を、できるだけ「早く」、「わかりやすく」、「親しみやすく」皆さまにお伝えしようとしていきました。



いよいよ最終盤となり、4月号から最後となる6月号の3回は「3年間を振り返ってー前例踏襲は打ち破れたか?ー」というテーマで、3年間、毎月の役員会・正副会長会議等の前に、「総務ミーティング」で方向性について一緒に悩んでくださった、伊東和男副会長、氏原亜由美総務部長、そして浅野寿美事務局長との対談を企画しました。

私たちが、3年間でやろうとしてきたこと、やり残したこと等をお話ししたいと思います。感想やご意見等がございましたら、私たちまで頂ければ、とても嬉しいです。

3年間、本当にありがとうございました！！

◆ 第2回目は、氏原亜由美総務部長です。

「前例踏襲を打ち破れ」の氏原さん流の解釈や、フレッシュアイで見た上での東海会の改革等について話が盛り上がりました。

1. 氏原流「前例踏襲を打ち破れ」について

稲垣：会計士協会の活動歴が短いという意味では、氏原さんは稲垣と同じように短いですね。私たちの執行部に氏原さんが総務部長でいてくださったことが、とても大きかったと思っています。

氏原さん流の「前例踏襲を打ち破れ」とは、どんな解釈なのでしょう？

氏原：「前例」には、良い前例と悪い前例があると思います。「良い前例は大切に承継」し、「悪い前例は見直す」、この単純な



氏原亜由美総務部長

ことを、協会の活動歴の短い人が、フレッシュアイで見て判断をしていく、これだけのことと思います。

稲垣：全く同感です。

でも、氏原さんには、この3年間でとてもたくさんの方のことを見直して頂きましたね。

2. 氏原改革について

稲垣：氏原さんが総務部長とて、特に気をつけたことは何でしたか？

氏原：私がいつも考えているのは、以下の3点です。

- ・アジェンダのない会議はやらない。
- ・イベントをやる以上は、できるだけ多くの会員に参加してもらいたい。
- ・上記を実現するためには、早めに準備を始め、しっかりと段取りをする。



稲垣：改めてそう言われると、この3年間、氏原さんは、ずっとこのことをおっしゃってましたね。ただ、ア

ジェンダを作るためには、頭を整理して準備をしなければできません。また、多くの方に参加してもらうためには、「早めに」「良い企画」をしなければ来て頂けません。

氏原さんのおっしゃっていらっしゃることは、「事前段取りをしっかりとせよ」ということですが、容易なことではないですね。

氏原：そうなんです。

事前段取りするためには、前年度の反省（申し送り）とその改善、改善のための企画、関係部署との調整、人材の配置、予算の調整、組織内の合意と決裁が必要です。

本気でやると、相当大変です。

稲垣：でも、相当やったと思いますよ。

3.「総務ミーティング」改革について

稲垣：従来は、「総務ミーティング」という会議は、隔月で行われる「役員会」で上程される議案の準備をするものでしたね。これを、完全に、氏原さんがバージョンアップさせましたね。

氏原：「総務ミーティング」は、会長、副会長（総務担当）、総務部長、事務局長の4名で構成されます。

総務部長は、内閣で言えば「官房長官」的な位置づけですので、この会議を一枚岩にする必要があると考えました。

そこで、開催頻度を役員会が行われる「隔月」から、役員会はないが正副会長会議のある月を含めて「毎月」開催としました。

また、内容についても、役員会の議案だけではなく、正副会長会議、4県会会長との意見交換会、顧問・相談役との意見交換会等の重要会議の議案は、すべてこの会議のフィルターを通して決定することとしました。

稲垣：これは、本当に助かりました。

すべての重要会議で議論すべき事項について、この4人で議論をして方向性を決めることができるわけです。従来の方法だったら、総務部長や事務局長から「会長どうしますか？」と聞かれて「去年と同じでやってください」と答えてしまいそうでした。



4. 4つの県会の活動の支援について

稲垣：氏原さんは、4つの県会の活動についてもフレッシュアイでいくつも提言をしてくださいましたね。



氏原：東海会の4つの県会は、どれも歴史があり、それぞれの文化もあります。また、それぞれ、活動も活発

です。

しかし、従来、「縦割り」的で、他の県会が「どんな事業」を「いつ」、「どのように」やっているかの共有がなされていませんでした。ですので、同じような事業を同じ時期にやったり、本来やると良いような他の県会がやっている事業をやっていないかったり、役割を終えた事業が継続されたりしていました。これを、4県会会長との意見交換会で協議して、整理整頓をしてきました。

稲垣：これは、かなり画期的だったと思います。私たち東海会の執行部も、各県会の総会等の重要なイベントには、必ず執行部から3名以上を参加させていただき、かつ、東海会全体としての取り組みをフィードバックする時間を頂くようにしました。

氏原：これらの取り組みで、東海会として、少しでも4県会の活動にご支援ができればと思いました。

でも、これも「言うは易し、行うは難し」で、総会時期は、東海会の執行部の日程調整がかなり大変でしたね、、、、

5.「定期総会」・「新春賀詞交歓会」改革について

稲垣：定期総会や新春賀詞交歓会も、改革しましたね。

氏原：この2つの行事は、東海会としては、来賓もいらっしゃる2大イベントと言っても過言ではありません。この2つの会の改革をするためには、まず、会の目的を、再確認することが必要でした（以下のとおり）。

・定期総会：

東海会の会員が、東海会の活動のための審議・承認、協議、報告をする会

・新春賀詞交歓会：

東海会の会員相互のみならず、ステークホルダーとのコミュニケーションをする会

目的が明確となれば、参加者、企画（議案）、進行（次第）、運営方法等を決めることができます。最近、この目的が少し混然としていたため、会自体も少し混乱していたように思いました。

稲垣：定期総会の開催場所も、従来、役員改選期を名古屋とし、それ以外の年は、静岡、岐阜、三重をローテーションしてきましたが、今後は、名古屋開催ということで決めましたね。

氏原：これは、ある意味、合理的な意思決定であり、開催する側も、参加する側も、お互いに都合が良いと思います。

ただ、「合理的だから変更する」ということも容易ではなく、いざ変えるとなると、いろいろな意見が出ました。しかし、稲垣会長のリーダーシップで、正副会長会議で協議し決定をした。これも、我々執行部の「前例踏襲を打ち破った」事例だったと思います。

6. 「台本」について

稲垣：私は、氏原さんと言えば「台本」を思い浮かべます。定期総会、新春賀詞交歓会、役員会等の重要なイベントの際には、氏原さんが作成した台本にお世話になりました。

氏原：私は、「台本」はとても大切だと思っています。

イベントの目的から企画を考えてやってみる、反省点が残る、次年度はその点を修正する、ということを繰り返した「台本」こそが、イベントの成否を決めるのではないのでしょうか？

稲垣：全く同感です。まさに「終わりなき旅」です。また、氏原さんは、「台本」の骨子や重要な点

をパワーポイント化し、スクリーン上映もしてくれましたね。これは、「東海会初」だったと思いますよ。

氏原：「参加者がわかりやすい」ことを強く意識しました。

パワーポイントを作成するに当たっては、伊東副会長にもものすごく助けて頂きました。

7. 終わりに

稲垣：氏原さんは、次年度は、大島会長の下、副会長になられるのですね？

副会長では、何をやりたいと考えているのですか？

氏原：まずは、稲垣年度の総務部長時代にやり残したことを、しっかりとフォローしたいと思います。

具体的には、定期総会と新春賀詞交歓会の運営はまだまだ改善の余地がありますので、これをバージョンアップしたいです。

また、会計士協会の役員任期は3年ですが、東海会自体は永続するわけですし、事務局スタッフもいらっしゃいます。誰が役員になっても、東海会のオペレーションが高いレベルで安定的に運営できるように、地域会としての会員サービスのため理念、規範、考え方のようなものや、各種規程、マニュアル、ルール等を少しでも整備していきたいと思っています。

